

テスト名	SAT (Scholastic Assessment Test)								
1. 運営事業団体	College Board								
2. テスト作成母体	College Board								
3. 主たる受験対象者	アメリカの大学進学希望者(主に英語を母語とする高校生) 一般的に高校2年生(junior year)の春・3年生(senior year)の秋の2回に受験する。								
4. 目的	(1)高校で学習した項目を問い、大学入学の適性を判断する(2)SATを受験することで受験に適切な大学を見つけることが可能である。 (3)奨学金や大学の授業の単位となる。(4)学習の指標とする。								
5. 構成概念の構成 (測定する能力)	Reasoning Test								
6. テストの性質(テキスト・タスクの性質など)・項目数	Critical Reading			Writing			Mathematics		
	短文読解問題	長文読解問題	空欄補充問題	小論文	誤文訂正問題(単文)	誤文訂正問題(パラグラフ)	多肢選択問題	多肢選択問題	短答問題
	多肢選択式(難易度順に出題)			筆記	多肢選択式		※関数電卓の持ち込みが許可されている。		
	25分セッション: 23~25問 20分セッション: 19問			1問	25分セッション: 35問 10分セッション: 14問		25分セッション: 18/25問 20分セッション: 16問		
7. 採点基準	※それぞれの問題の受験時間・問題数は、ランダムに決定される(小論文除く) 多肢選択問題: 正解は+1点、不正解は-1/4点、無回答は0点 短答問題: 正解は+1点、不正解は減点なし、無回答は0点 小論文: 以下の基準1-6点で2名の評価者が採点し、これらを足す。 ・6点: 細かいミスがあっても、全体に明確で一貫しており、良い小論文。 ・5点: 間違いや繰り返しがあるが、適度に一貫しており、良い小論文。 ・4点: 繰り返しがあるが、適切である、良い小論文。 ・3点: やや良いが、問題点がある小論文。 ・2点: あまり熟達しておらず、問題点が散見する小論文。 ・1点: 熟達しておらず、かなり問題がある小論文。 → これらの得点を、「等化」したものを最終的な得点とする。								
8. 得点	200~800点			200~800点			200~800点		
9. 評価・Feedback	※テスト時の機器に不具合があったり、自分の出来に満足できなければ、受験後数日であれば得点をキャンセルできる。 各セッションの得点・解答状況(正誤)・今後のアドバイス・他の受験者との比較(地域別・全国)・自分の書いた小論文と評価など								
10. 受験時間	各セッションは10~25分間の制限時間が設けられている。休憩を含め全体で3時間45分間。								
11. 受験者数	70分間(25分×2、20分×1)			60分(10分×1、25分×1、小論文25分×1)			70分(25分×2、20分×1)		
12. 受験料	年間200万人以上								
13. ウェブサイト	\$50(受験料)+\$31(国際手数料)								
14. その他(変化・特徴など)	http://sat.collegeboard.org/home http://www.fulbright.jp/study/res/test.html 参考資料: 宮前一廣著.(2006).『アメリカ大学留学 新SAT完全攻略』 テスト構成: 小論文セッション(25分)→25分セッション・20分セッション・10分セッションがランダムに実施され小論文以外のセッションの試験順はランダムで、隣同士の受験者が同時に同じセッションにならないよう配慮される(アルク, 2006)。 1つのダミーセッション(25分間)が含まれており、どれがダミーかは受験者には知らされず、このデータは成績には含めずテスト開発に使用される。 名称の変化: SAT I → SAT Reasoning Test, SAT II → SAT Subject Test 日本の開催地: 国際基督教大学・福岡インターナショナルスクールなど全国で実施されているが、受験地は日程によって異なる。 ※ウェブサイトには、自分の得点に適切な大学を検索するサービスなどがある。								
15. コメント・感想	数学の問題は、比較的難易度が低いように思う。								